

## 中井正一著作目録 追補

平川 千宏  
藤井 祐介

---

### 中井 正一（なかい まさかず）

1900（明治33）年、広島県竹原町に生まれる。25（大正14）年、京都帝国大学文学部哲学科を卒業。大学院に進み、30（昭和5）年、学友と美学の同人誌『美・批評』を創刊。33年の滝川事件の運動への参加を経て、35年、真下信一、新村猛、久野収、武谷三男らと雑誌『世界文化』を創刊し、世界の反ファシズムの文化動向を紹介した。36年、同誌に代表的論文とされている「委員会の論理」を発表。同年7月、前記の仲間たちと隔週刊の新聞『土曜日』を発刊し、時代を批判する「巻頭言」を書き続けたが、37年、同人たちとともに治安維持法違反によって検挙され、運動は壊滅させられた。

戦後、45（昭和20）年に尾道市立図書館長に就任し、以後広島県全域にわたって地方文化運動を展開し、47年には広島県知事選に立候補したが惜敗。48年、創設された国立国会図書館の初代副館長に就任する。以後、同館の基礎づくりに全力を傾注するとともに、日本図書館協会理事長として図書館法制定のために尽力する。

52年5月、がんを患い、死去。

---

## はじめに

本誌32号(1986年刊)に、故新村徹氏との共編で「中井正一著作目録」を発売した。中井の研究者は多く、幸いよく利用されて今日にいたっているが、その後20年余を経て、新に発見された中井の著作も一定の数になった。また、中井の著書として新に刊行されたものもある。それらをまとめて「追補」として発表することにした。

今回は、藤井祐介氏との共編で発表する。藤井氏は、主として戦前、戦後の関西、中国地方の新聞・雑誌等から中井の著作を探索してこられた。また今回、『土曜日』の無署名の記事のうち、中井の著作と推定できるものの調査にあたられた。

なお、前回・今回とも、目録には、主として出版物に掲載された中井の著作を収録・紹介しているわけだが、中井正一関係の文書類(ノート、手帳、メモ、寄せ書き、写真等)は、京都大学大学文書館、市立竹原書院図書館等に収められていることを付記しておく。(平川)

## 凡 例

全体を、Ⅰ単行書、Ⅱ論文・エッセイ等に分けた。

### Ⅰ 単行書

「中井正一著作目録」(以下「著作目録」という)発表以後、中井の著書として刊行された単行書を収録した。

配列は、出版年順とした。

記載事項は、『タイトル』、編者、出版者 出版年月、頁数、大きさ、(叢書名)、内容であり、必要に応じて「注」を付した。

### Ⅱ 論文・エッセイ等

「著作目録」発表以後に発見した中井の論文・エッセイ等を収録した。いずれも、中井の既刊の全集・単行書に未収録のものである。

配列は、戦前・戦中、戦後に分けて、文献の発表年月順としたが、座談会はそのあとに掲載した。最後に、「著作目録」では、原資料が確認できなかったために、「巻号未詳」「掲載頁未詳」などとしたものがあったが、その後資料を確認したものについて、書誌事項を記載して改めて掲出した。

記載事項は、雑誌掲載のものは、タイトル、「掲載誌名」、巻号または号

数、発行年月、掲載頁である。新聞掲載のものは、タイトル、「掲載紙名」、発行年月日である。図書掲載のものは、タイトル、「掲載図書名」、出版者、出版年月、掲載頁である。上記いずれの場合も、必要に応じて「注」を付した。文献によっては探索しにくいものもあるので、「プランゲ文庫」に収められているもの、「中井正一研究会会報 準備号」（甲斐等氏発行）に紹介・転載されているものについては、それぞれその旨を「注」に記した。「中井正一研究会」は2000年2月に尾道で開かれた「中井正一生誕百年の集い」を契機に発足し、活動を続けている団体である。

## I 単行書

### 『中井正一評論集』

長田 弘編 岩波書店 1995 (平7).6 406p 14cm (岩波文庫)

- 内容 I 委員会の論理  
II スポーツ気分の構造  
    スポーツの美的要素  
    リズムの構造  
III 絵画の不安  
    探偵小説の芸術性  
    芸術的空間  
    芸術の人間学的考察  
IV 気質 (かたぎ)  
    気 (け、き) の日本語としての変遷  
    感嘆詞のある思想  
    脱出と回帰  
V 美学入門  
VI 図書館に生きる道  
    図書館の意味  
    二十世紀の頂における図書館の意味  
    図書館の未来像  
    調査機関  
解説 (長田 弘)

『土曜日 憩ひと想ひの午后』

徳村杜紀子 [編・刊] [1999 (平11)] 43p 25cm

内容 「土曜日」と今をつなぐもの (徳村杜紀子)

「土曜日」について (久野 収) (『美と集団の論理』より転載)

『土曜日』巻頭言 18編 (中井正一)

「森に生きる」より 後の世代への手紙 (徳村 彰) (『毎日新聞』より転載)

注：本書は、中井正一次女・徳村杜紀子が編集・発行したもので、のち旗手みどりによって増刷もされた。

『中井正一エッセンス』

鈴木 正編 こぶし書房 2003 (平15).7 306p 19cm (こぶし文庫)

内容 I 委員会の論理

委員会の論理——一つの草稿として

II 機能美の空間論

機能概念の美学への寄与

スポーツの美的要素

集団美の意義

現代における美の諸性格

III 転向と回心の間

われらが信念

橋頭堡

感嘆詞のある思想

知識と政治との遊離

組織への再編成——『資治通鑑』の諫官の祈り

雪

三木・戸坂両君を憶う

三木君と個性

戸坂君の追憶

回顧十年——思いいずるままに

IV 日本の美と思想

日本の美 (抄)

実践について——馬になった話

機構への挑戦——「場所」から「働き」へ

大衆の知恵  
過剰の意識  
農村の思想

解説・略年譜・注（鈴木 正）

〔付録〕場 25号 『中井正一エッセンス』特集

内容：『中井正一エッセンス』刊行によせて

源流にいた人（鶴見俊輔）

さわやかな記憶（渡辺一衛）

中井正一再読のために（針生一郎）

ある全集未収録の文章から思ったこと（木下長宏）

「さびしさ」と「しずけさ」（篠原資明）

戦後前衛芸術の精神的支柱・中井正一（高島直之）

ホップ・ステップ・ジャンプ（後藤嘉宏）

人間の尊厳を信じつづけた父——美しき魂を求めて  
（岡田由紀子）

父の遺した言葉（徳村杜紀子）

## Ⅱ 論文・エッセイ等

### 〈戦前・戦中〉

胚芽米について 「京都家庭消費組合月報」 4号 1930（昭5）.3 p4

注：「中井正一研究会会報 準備号」22号に紹介

リアリズムの新しい展望 「映画芸術」 1巻2号 1930（昭5）.8 p22～28

注：「中井正一研究会会報 準備号」35～36号に紹介

組合の情趣 「京都家庭消費組合月報」 9号 1930（昭5）.9 p4 注：「中

井正一研究会会報 準備号」22号に紹介

故澤村教授の遺稿「日本絵画史の研究」「京都帝国大学新聞」 1931（昭6）.  
12.5

水 「日出芸林」 1932（昭7）.6.6 注：「中井正一研究会会報 準備号」24  
号に紹介

火花 「日出芸林」 1932（昭7）.7.25 注：「中井正一研究会会報 準備号」  
25号に紹介

技術と芸術のための問題の資料的報告 「美・批評」 28号 1934（昭9）.5

- p34～37 注：「美・批評編集部」名義で発表されたが中井著と推定。「中井正一研究会会報 準備号」49号に紹介
- 日本には未だ宗教改革はない 〈爐辺漫言〉「中外日報」 1936（昭11）. 1. 24 注：「中井正一研究会会報 準備号」20号に紹介
- 壇のうら 「土曜日」 1936（昭11）. 7. 4 注：無署名だが中井著と推定
- 映画の芸術性 〈週評〉「大阪毎日新聞（京都版）」 1936（昭11）. 11. 5
- 売りものゝ大衆 「土曜日」 1936（昭11）. 12. 19 注：無署名だが中井著と推定
- 歴史の跋行を示唆した島芳夫氏の“ルソー” 〈書架の前〉「読売新聞」 1937（昭12）. 1. 14
- 遠く高く 日本精神よ、翔れ 「土曜日」 1937（昭12）. 1. 20 無署名だが中井著と推定
- 人間性の生還（上）「大阪毎日新聞」 1937（昭12）. 1. 21 注：「中井正一研究会会報 準備号」43号に紹介
- 人間性の生還（中）「大阪毎日新聞」 1937（昭12）. 1. 22 注：「中井正一研究会会報 準備号」44号に紹介
- 人間性の生還（下）「大阪毎日新聞」 1937（昭12）. 1. 23 注：「中井正一研究会会報 準備号」45号に紹介
- 土を亡なふ人々——「蒼氓」を評す 「大阪朝日新聞（京都版）」 1937（昭12）. 2. 18 注：「中井正一研究会会報 準備号」31号に紹介
- 映画の美に就て（続）「土曜日」 1937（昭12）. 2. 20 注：無署名だが中井著と推定
- 大協に寄する言葉 「大阪協同劇団パンフレット 第1輯」 大阪協同劇団 1937（昭12）. 3 p36 注：「中井正一研究会会報 準備号」37号に紹介
- 土の映画 蒼ぼう・新らしき土・よき土・アラン・黒き土 「土曜日」 1937（昭12）. 3. 5 注：無署名だが中井著と推定
- 土を失った女達 「からゆきさん」 「土曜日」 1937（昭12）. 3. 20 注：無署名だが中井著と推定
- 生きること、描くこと 「アトリエ」 14巻4号 1937（昭12）. 4 p2～4
- 言葉のない思想 「大阪朝日新聞（京都版）」 1937（昭12）. 5. 26 注：「中井正一研究会会報 準備号」23号に紹介
- 批評家の立場から 〈前衛絵画批判〉「アトリエ」 14巻6号 1937（昭12）. 6 p32
- 生きること、美しさ 「東丘」 8号 1937（昭12）. 9 4p（頁付なし）

伝統と進歩 「アトリエ」 14巻9号 1937 (昭12).9 p19～20  
ニュース映画のほんとうの強み 学芸と集団感 「土曜日」 1937 (昭12).  
10.5 注：無署名だが中井著と推定  
芸術の人間学的考察 「修身教育」 92号 1939 (昭14).8 p116～123  
日本精神史に於ける「き」(気)並に「かたぎ」(形気、気質)なる語の歴史的  
比較的及び統計的研究 「研究報告(昭和十七年度)」 帝国学士院  
1943 (昭18).8 p8 注：「中井正一研究会会報 準備号」46号に紹介  
〈戦後〉  
〈インタビュー〉 中井図書館長さん 〈超特急会見記 5〉「山陽新聞」 1946  
(昭21).6.5 注：「中井正一研究会会報 準備号」38号に紹介  
文化時評 「瀬戸内海」 1巻1号 1946 (昭21).7 p14～16 注：プランゲ  
文庫所収  
大きなカオスから 「夕刊京都」 1946 (昭21).8.23 「中井正一研究会会報  
準備号」39号に紹介  
軽み 「さいかち」 199号 1946 (昭21).8 注：プランゲ文庫所収  
子供へのことば 「子供の世界」 創刊号特輯 1946 (昭21).11 p8  
注：プランゲ文庫所収  
[アンケート] われらいま何をなすべきか 「夕刊京都」 1946 (昭21).11.  
10 注：「中井正一研究会会報 準備号」40号に紹介  
奥村伊久良君の追憶 〈戦争で喪った古美術人 2〉「古美術」 17巻1号  
1947 (昭22).2 p56～59  
大衆と直通する県政を打たてる 広島県知事候補者 中井正一氏放送要旨  
「民友新聞」 1947 (昭22).3.25 注：「中井正一研究会会報 準備号」53  
号に紹介  
アマゾン(闘う女)の群 「新椿」 2巻3号 1947 (昭22).4 p15～16  
注：プランゲ文庫所収  
労働の尊厳 「労文タイムス」 1947 (昭22).6.1 注：プランゲ文庫所収.  
「中井正一研究会会報 準備号」42号に紹介  
極東機械製作所に於ける労働組合法第十一条違反事件提訴理由書 1947 (昭  
22).8.11 注：「広島県地方労働委員会会長 中井正一」名義で作成された  
文書だが、実際に中井の執筆によるものかどうかは不明。「広島県地方労  
働委員会十年史」(1956刊)所収。「中井正一研究会会報 準備号」76～  
77号に紹介  
日本労働者は世界労働者にいかに答えるべきか 「労文タイムス」 1947 (昭

- 22). 8. 11 注：プランゲ文庫所収。「中井正一研究会会報 準備号」43号に紹介
- 立上る歎び (上)「東京新聞」1947(昭22).9.29
- 立上る歎び (下)「東京新聞」1947(昭22).9.30
- 瀬戸内海美展批判 自分の眼で自分を見よ「労文タイムス」1947(昭22).  
12.21 注：プランゲ文庫所収。「中井正一研究会会報 準備号」44号に紹介
- 労働の尊厳「築地」2巻1号1948(昭23).1 p2～3 注：プランゲ文庫所収
- 生きていると云うこと「療友文化」1号1948(昭23).2 p1～2  
注：プランゲ文庫所収。「中井正一研究会会報 準備号」40号に紹介
- 磨滅した歯車〈随想〉「新県政」9・10合併号1948(昭23).3 p11～12  
注：プランゲ文庫所収
- 「後髪を引かれる思い」中井正一氏東京へ「労文タイムス」1948(昭23).  
5.1 注：一時広島に帰った中井のお別れのことばの要旨を紹介している。  
プランゲ文庫所収。「中井正一研究会会報 準備号」45号に紹介
- 特別の生まれ方をさした母 日本で最初の帝王切開をした女性「ニッポン  
ダイジェスト」3巻7号1949(昭24).7 p49～54 注：「『婦人』より  
要約」とあり。プランゲ文庫所収
- 〈ココア集〉「図書新聞」1949(昭24).9.27 注：〈ココア集〉は本の  
紹介欄。中井は塩谷賛との連名で、高木惣吉『太平洋海戦史』、伊達四  
郎『観念論からニヒリズムへ』、斎藤茂吉『幸田露伴』、石橋秀野『桜濃く』  
を紹介している。分担は記していないが前二著の紹介が中井と推定される
- 「図書館法」の成立に際して「出版ダイジェスト」1950(昭25).4.21  
注：文末に「(談文責A記者)」とあり
- 出版界の組織化「日本読書新聞」1950(昭25).10.4
- 主観から主体へ 岐路に立つ教即愛の精神〈日本の教育〉「東京大学学生  
新聞」1950(昭25).10.5
- 美しい山河「夕刊げいなん」1951(昭26).1.1 注：「中井正一研究会会報  
準備号」19号に紹介
- 結語 時代と話し言葉〈戦後語展観——言葉は生きものである〉「毎日情報」  
6巻1号1951(昭26).1 p160～163
- 〈書評〉瓜生忠夫著『映画のみかた』「日本読書新聞」1951(昭26).3.28
- 〈書評〉森正蔵著『戦後風雲録』「毎日新聞」1951(昭26).10.18



序 「図書館雑誌総索引 明治40年—昭和25年」 文部省図書館職員養成所  
図書館研究部編 日本図書館協会 1951 (昭26). 12 p iii

購買層の拡大 〈出版危機への処方箋 私の考えはこうだ〉「図書新聞」1952  
(昭27). 1. 1

#### 〈座談会〉

雑誌座談会 「京都日出新聞」1933 (昭8). 9. 18 注：他の出席者＝内村ハ  
ツ子、大槻庄太郎、河原武四郎、木村頼之助、国行義則、住谷悦治、田村  
敬男、藤井勇、藤井源一、満田豊弘、宮崎則忠、山田一夫

一九三六年の回顧座談会 「大阪毎日新聞 (京都版)」1936 (昭11). 12. 17  
注：他の出席者＝梯明秀、草野昌彦、住谷悦治、田中直吉、富岡益五郎、  
蜷川虎三、能勢克男、「中井正一研究会会報 準備号」72～73号に紹介

“断層”を俎上にして新劇のあすを語る各大学同好者の座談会 「大阪朝日新  
聞 (京都版)」1937 (昭12). 4. 21 注：他の出席者＝豊岡佐一郎、大岡  
欽治、木下ゆづ子、杉本英子、高谷伸、清水光、藤井好文

ラヂオに扶けられて室内楽再興の気運 ジルマルシエツクス氏に世界の楽壇  
を聴く 「大阪毎日新聞 (京都版)」1937 (昭12). 7. 1 注：他の出席  
者＝市村恵吾、長広敏雄、森下辰夫、能勢克男、加藤千恵、中瀬古和子

用意はよいか、行く手は赤信号 経営の社会化民主化要望 〈本社主催 労働  
座談会 1〉「山陽新聞」1947 (昭22). 9. 23 注：他の出席者＝今井末雄、  
服部保、橋本福雄、細谷利長、岡本省三、村上政治、有地寅吉、三宅寛、  
水野桂吾、森下五助、「中井正一研究会会報 準備号」74号に紹介

資本家よもっと勉強せよ 伝家の宝刀ウカとは抜くまい 〈本社主催 労働座  
談会 2〉「山陽新聞」1947 (昭22). 9. 25 注：他の出席者＝同前、この  
回に中井の発言なし

「食えない」闘争から建設闘争へ 大きく成長した労働者 〈本社主催 労働  
座談会 3〉「山陽新聞」1947 (昭22). 9. 27 注：他の出席者＝同前、  
「中井正一研究会会報 準備号」75号に紹介

来るべき大量失業こそ重大事 資本攻勢も漸次巧妙化 〈本社主催 労働座談  
会 4〉「山陽新聞」1947 (昭22). 9. 30 注：他の出席者＝同前、この回  
に中井の発言なし

労働会館もつくろう 手を組んで進もう幹部と組合員 〈本社主催 労働座談  
会 5〉「山陽新聞」1947 (昭22). 10. 2 注：他の出席者＝同前、この回  
に中井の発言なし

菓食う三セズ主義 ご存じないお役所のからくり 〈行政整理を語る 上〉

「中国新聞」 1948 (昭23). 1. 27 注：他の出席者＝河野義信、志牟田喜久夫、中村俊一、この回に中井の発言なし  
難船の荷物放棄だ 掛声よりも強い政治を 〈行政整理を語る 下〉「中国新聞」 1948 (昭23). 1. 28 注：他の出席者＝同前

〈著作目録〉で書誌事項が未確認だったもので、その後確認したもの〉

「見ること」の意味 「国民美術」 1巻1号 1937 (昭12). 4 p11～13

注：「中井正一全集」3巻に所収

集团的芸術 「プレスアルト」 9号 1937 (昭12). 9 p2 注：「中井正一全集」2巻に所収

行動の意味 「ぱれっと」 1号 1946 (昭21). 10 p16～17 注：「中井正一全集」3巻に所収。「著作目録」ではタイトルが「絵画における行動の意味」となっているが、上記が正しい。また、「全集」「著作目録」とも掲載誌が「パレット」となっているが、上記が正しい

気鋒の問題 「真日本」 6号 1947 (昭22). 1・2 p50～51 注：ブランゲ文庫所収

真理を求めて 〈平和祭に寄す〉「中国新聞」 1950 (昭25). 8. 2 注：「中井正一全集」4巻に所収。同書では発行年が1951年になっているが、上記が正しい

読むという言葉 「月刊 学校図書館」 15号 1950 (昭25). 12 p5

注：掲載誌は大阪市教育委員会社会教育部文化課発行

子供を自然に解き放て 「教育評論」 53・54合併号 1951 (昭26). 8・9 p9～11 注：掲載誌は「教育友の会」発行

〈座談会〉若い世代の恋愛と倫理 「ひろば」 2号 1947 (昭22). 10 p50～62 注：他の出席者＝真下信一、荒正人、江間章子、中村哲、中村真一郎、鶴見和子。ブランゲ文庫所収

(ひらかわ ちひろ 元職員)

(ふじい ゆうすけ 大谷大学非常勤講師)